

授業実践に向けたレポート

(吉野ヶ里町立 東脊振) 小学校 (筒井 久美子)

1 授業実践について

(1) 学年・単元名

<p>第 (3) 学年</p> <p>単元名 「 電気で明かりをつけよう 」</p>
--

(2) 単元学習計画案

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で使っている明かりがつくものにはどんなものがあるか、話し合う。 豆電球に明かりをつけるのに必要な物について考える。 	1 時間
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> 豆電球とかん電池を、どのようにつなぐと明かりがつくか調べる。 豆電球のつくりを知り、ソケットを使わずに明かりをつける方法を調べる。 	1 時間 1 時間
いかす	<ul style="list-style-type: none"> 電気を通すものと、通さないものを調べる。 生活の中で電気を安全に使うための工夫について考える。 	2 時間 (1 / 2 本時) 1 時間

(3) 想定される展開

想定される学習活動や児童の様子	想定される指導
<p>○豆電球に明かりがつくためには、電気の流れる回路を作らなければならないことを、教師の演示から確認する。</p> <p>○豆電球に明かりのつく回路の途中で物をはさむと、回路に電気が流れるかどうか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> はさみの切る部分 (金属) を回路の途中にはさんでも、豆電球に明かりがつく。 →はさみの切る部分にも電気が流れた。 はさみの持ち手の部分 (プラスチック) を回路の途中にはさんだら、豆電球の明かりがつかない。 →はさみの持ち手の部分は電気が流れない。 <p>○教師の演示実験から、電気を通すものと電気を通さないものがあることに気づき、学習問題を考える。</p>	<p>○前の時間で学習したことを、演示しながら確認させる。電気が流れることで明かりがつくことをおさえる。</p> <p>○回路の途中にはさみの切る部分をつなぐと、明かりがつくかどうか予想させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 明かりがつくことは、はさみの切る部分に電気が流れた (通る) ことだと確認させる。 ○はさみの持ち手の部分をつなぐと、明かりがつくかどうか予想させる。 明かりがつかないことは、はさみの持ち手の部分に電気が流れなかったからだと確認させる。 <p>○2つの演示実験の違いに気づかせ、電気を通すものと、通さないものがあることを知らせ、学習問題を考えさせる。</p>

2 全体を通しての所感

<p>学習問題を考えさせる手立てとして、2つの事象の違いに気付かせることは、児童に考えさせたり、興味や関心をもたせたりするのに有効であると感じた。自らもった疑問に対して探求意欲が湧き、主体的に学ぶ態度となると考える。今後の授業実践においても、児童が自ら調べたい、知りたいと思えるような問題提起を心掛けたい。また、生活の中でどのように自然事象が関わっているかに気づかせたり、考えさせたりすることで、児童の自然事象を見る目を養いたい。</p>
